

# 令和7年度事業報告

## 1 事業総括

### (1) 概要

本年度は、燕趙園の開園30周年、県立美術館開館、臨海公園南谷地区再整備、アフター万博などを契機とした取り組みをはじめ、利用環境の整備と一層の魅力向上、誘客に取り組んだ。

また、各施設が地域や学校、団体等と協力して、連携事業や誘客活動を積極的に実施した。今後も、地元密着の企業として、地域の魅力創出と活性化に資する取り組みを推進していく。

鳥取県と連携した、県立観光施設等活性化プロジェクトチームに参加し、施設の特性に沿った、新たな魅力創出の取り組みを検討した。その結果、5つの施設で令和8年度に新たな事業が実施されることとなり、更なる磨き上げの検討を行っているところである。こうした取り組みをはじめ県の所管課と緊密に連携し、迅速な課題解決と指定管理業務の改善に努めていく。

インバウンド需要をより一層取り込むことを目的として、現地での商談会参加及びセールスコール等を行い、県内発着の国際線航路を利用する外国人旅行者の誘客に取り組んだ。運休した路線があるものの、県外空港からの入込も含め、外国人旅行者の利用は多くの施設で増加した。今後も周辺施設とも連携して誘客活動を継続して行い、利用者の増加及び安定につなげていきたい。

広報活動に関しては、旅行ニーズの多様化が進む中、SNSを活用した情報発信を強化した。

当財団全体では、経営本部会議を毎月開催し、収支や利用状況の把握と分析を行うとともに、指定管理業務に係る情報と対応方針を共有し、サービス及び施設の効用の向上、経営改善に取り組んだ。総務調整会議、集客担当者会議などを通じて、各施設の横のつながりを図りながら、情報共有と課題解決を図った。

人件費に係る指定管理料の増額措置を受けて職員の処遇改善に取り組み、全職種の給料賃金のベースアップ及び賞与の増額を実施した。また、改善検討委員会において、働きやすい職場環境づくりに向けた課題の把握と改善策の検討によって、両立支援制度の拡充を行った。組織力の一層の向上のため、引き続き職員の心身の健康維持と能力発揮を支える環境整備に向けて、課題改善に取り組んでいく。

### (2) 受託施設の利用状況

本年度の利用者数は1,343,904人で、前年度比101.3%、目標比96.5%となった。

春から晩夏にかけての大阪関西万博の開催や猛暑と長引く残暑、また1月6日に発生した島根県東部を震源とする最大震度5強の地震による風評などにより、集客に苦戦した施設もあった。近年の猛暑に対して、水の遊び場などの暑さを避けてこどもが遊べる場所の提供を行うなど、利用環境の工夫、整備によって、集客と利用者の満足度向上につなげた。梨記念館においては、令和7年3月に開館した県立美術館と連携してプロモーション活動を行い、中部地域への誘客を促進した効果もあり、年間入館者数は開館以来最多となるとともに、外国人旅行者も大幅に増加した。夢みなとタワーでは、大型イベントのほか、大阪関西万博記念とっとりサンドパビリオンが好評で利用者数を伸ばした。各施設が新しい企画の開発や既存サービスの更なる改善に取り組み、誘客においては様々な情報発信の手法を有効に活用して集客につなげた。

## (総利用者数)

施設名	令和7年度		令和6年度	達成率 B/A	前年対比 B/C
	目標(人) A	実績(人) B	実績(人) C		
鳥取砂丘こどもの国	188,000	184,259	190,271	98.0%	96.8%
とっとり賀露かっこ館	245,000	244,941	241,681	100.0%	101.3%
青谷かみじち史跡公園	36,000	29,760	35,297	82.7%	84.3%
氷ノ山自然ふれあい館	48,000	45,334	38,174	94.4%	118.8%
東郷湖羽合臨海公園	234,000	232,453	230,422	99.3%	100.9%
中国庭園燕趙園	70,000	65,150	67,629	93.1%	96.3%
鳥取二十世紀梨記念館	145,000	168,733	142,635	116.4%	118.3%
夢みなとタワー	112,000	137,299	135,050	122.6%	101.7%
とっとり花回廊	315,000	235,975	245,807	74.9%	96.0%
合 計	1,393,000	1,343,904	1,326,966	96.5%	101.3%

※青谷かみじち史跡公園は、無料エリアの利用者数を計上

## (3) 収支状況

## ①最終予算額との対比

正味財産増減額は、2月補正予算編成時に59,677千円程度の赤字を見込んでいたが、最終的に15,205千円の赤字となり、44,472千円改善した。

## ②令和6年度決算額との対比

収入は114,722千円、支出は182,164千円増加した。収入増の主な要因は、人件費及び燃料・光熱費に係る指定管理料の増額、青谷かみじち史跡公園の地域連携事業及び燕趙園の30周年事業等の受託、梨記念館の売店売上の好調、夢みなとタワーのとっとりサンドパビリオン展示開始による利用者の増加等による収益事業収入の増加である。

支出増の主な要因には、処遇改善による人件費の増、法人税及び消費税の増、受託事業費の増のほか、修繕、業務委託及び売店売上増に伴う材料費の増等が挙げられる。

正味財産増減額については、令和6年度は52,938千円の黒字であったが68,143千円減少し、15,205千円の赤字となった。

## (決算総括表)

(単位：千円)

区分	科目	当初予算	最終見込			対最終 B-A	対前年 B-C
			A	B	C		
収入	受託収入	1,393,951	1,400,696	1,401,096	1,293,048	400	108,048
	事業収入	785,544	687,784	690,377	680,768	2,593	9,609
	その他収入	2,867	3,249	3,495	6,430	246	△ 2,935
	計	2,182,362	2,091,729	2,094,968	1,980,246	3,239	114,722
支出	管理費	1,712,049	1,708,545	1,678,396	1,510,185	△ 30,149	168,211
	事業費	470,313	442,861	431,776	417,823	△ 11,085	13,953
	計	2,182,362	2,151,406	2,110,172	1,928,008	△ 41,234	182,164
経常増減額		0	△ 59,677	△ 15,204	52,238	44,473	△ 67,442
経常外増減額		0	0	△ 1	700	△ 1	△ 701
正味財産増減額		0	△ 59,677	△ 15,205	52,938	44,472	△ 68,143

(注：端数処理により合計と内訳の計は必ずしも一致しない)

## 2 鳥取県からの指定管理者受託業務

### (1) 受託施設

- ア. 鳥取県立鳥取砂丘こどもの国
- イ. 鳥取県立とっとり賀露かっこ館
- ウ. 青谷かみじち史跡公園（㈱チュウブとの共同運営）
- エ. 鳥取県立氷ノ山自然ふれあい館
- オ. 鳥取県立東郷湖羽合臨海公園（藤津地区、浅津地区及び南谷地区）  
（㈱チュウブとの共同運営）
- カ. 鳥取県立東郷湖羽合臨海公園（引地地区及び長和田地区）
- キ. 鳥取県立鳥取二十世紀梨記念館
- ク. 鳥取県立夢みなとタワー
- ケ. 鳥取県立とっとり花回廊（（一社）鳥取県造園建設業協会とのコンソーシアム）

### (2) 受託業務

- ア. 受託施設に係る利用・集客促進に関すること
- イ. 受託施設の維持管理に関すること
- ウ. 受託施設の料金等の徴収に関すること
- エ. 受託施設の利用者等に対する供用上の指導等に関すること
- オ. その他、受託施設に付帯する事務に関すること

# 令和7年度事業実績報告書

## 【鳥取砂丘こどもの国】

### 1 事業概要

<p>(主な取り組み)</p> <p><b>1 サービス向上に向けた取り組み</b></p> <p>①レストランでは幅広い世代が利用できるよう、新感覚アイスなどの新しいメニューを提供した。また外国人客が利用しやすいように英語のメニュー表を作成した。</p> <p>②多目的ホールに段ボール遊具を設置し、雨天時にも遊べる遊具を増やした。</p> <p>③変形自転車乗り場の拡張工事を実施し、より安全に利用できる環境を整備した。</p> <p><b>2 利用促進に向けた取り組み</b></p> <p>①YouTubeチャンネル「鳥取砂丘こどもの国PiPiChannel」を開設。あわせて園内の風景やイベント開催状況をSNSで積極的に発信した。また7月にはLINE友達登録を増やすためにLINE友達登録キャンペーンを実施した。</p> <p>②冬場に天候に関係なく身体を動かすことができるイベント「げんきっずランド」を開催した。</p> <p>③初の試みとして砂丘の土産施設・バス会社との公民館への合同セールスを実施。</p> <p><b>3 地域、団体等との連携</b></p> <p>①・鳥取県が主催したこどもミーティング「ASUYOKU」の開催場所として、子どもの意見表明と多様な社会的活動への参加の機会づくりに協力した。</p> <p>②鳥取市消費者生活センター、公立鳥取環境大学共催イベント「鳥取市消費者市民まつり」を当園で初開催した。</p> <p>③米子高専と連携し、「イルミネーションをプログラムしよう」、万博で展示した「光を使ってピンクダイヤを探そう」イベントを開催した。</p> <p><b>4 施設の安全管理</b></p> <p>①遊具・施設の老朽化が進む中、毎日の園内巡視で報告があった危険箇所・修繕箇所については応急処置および専門業者による修繕を行い、安心・安全な園づくりに努めた。また、メーカーの定期点検で指摘があった箇所の修繕等を行った。さらに日本公園施設業協会加盟の企業から講師を招き、遊具の日常点検に関する研修を職員向けに実施した。</p>	<p>(主な取り組みに対する結果の評価及び課題と対応方針)</p> <p><b>1 サービス向上に向けた取り組み</b></p> <p>①トレンドを取り入れたメニューの導入とインバウンド対応としての「英語メニュー」整備により、多様な来園者のニーズを的確に捉え、施設全体の満足度を高めることに寄与した。今後はさらなる訪日外国人の増加が予想されるため、園内の多言語対応を一層強化していく。</p> <p>②天候に左右されることなく、子供たちが体を動かせる環境を整えたことで、「全天候型の憩いの場」として、施設の利便性と魅力を向上することができた。</p> <p>③変形自転車利用者同士の接触リスクを低減し、「安全・安心」な環境づくりを強化した。</p> <p><b>2 利用促進に向けた取り組み</b></p> <p>①LINE友達登録キャンペーンにより、新たに300名の登録を獲得。Instagramでもフォロワー数1,500名を達成するなど、動画などを活用した情報発信により幅広い世代に情報を届けることができた。</p> <p>②開催期間中には延べ1万名の利用があり、冬場でも屋内で思い切り遊べるイベントとして、高い支持を得ることができた。</p> <p>③公民館営業を実施したところ、1件の予約が入った。この結果をふまえ、今後も公民館をはじめとする地域密着型の営業を継続していく。</p> <p><b>3 地域、団体等との連携</b></p> <p>①～③地域・行政・教育機関と連携し、さまざまなイベントを開催することができた。今後も地域の団体との共催イベントや発表の場の提供を通じて、地域に不可欠な施設として貢献していく。</p> <p><b>4 施設の安全管理</b></p> <p>①遊具の適切な補修と職員への点検教育を実施し、安全管理体制の強化に努めた。一方で、リニューアル後25年が経過した施設内では、大型遊具を中心に日本公園施設業協会の安全基準に適合しない遊具が増えている。日々のメンテナンスによる維持には限界があり、遊具の更新を検討すべき時期にきている。</p>
--	---

### 2 入園者一覧表(年間計画、実績)

(単位:人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和7年度目標(人) A	27,000	27,700	17,000	12,000	26,000	15,800	19,000	13,300	4,000	6,700	4,000	15,500	188,000
令和7年度実績(人) B	19,853	26,441	13,346	12,495	23,317	12,920	15,702	19,227	5,338	5,165	9,859	20,596	184,259
対目標比率(%) C=B/A	73.5%	95.5%	78.5%	104.1%	89.7%	81.8%	82.6%	144.6%	133.5%	77.1%	246.5%	132.9%	98.0%
令和6年度実績(人) D	22,670	27,763	17,078	12,032	26,393	15,885	19,220	14,044	4,529	7,532	4,662	18,463	190,271
対6年度比率(%) E=B/D	87.6%	95.2%	78.1%	103.8%	88.3%	81.3%	81.7%	136.9%	117.9%	68.6%	211.5%	111.6%	96.8%

<p>入園者の推移、増減要因</p>	<p><b>1 入園者の推移</b> 対前年6,012人減となったが、過去20年では令和6年に次ぐ入園者数となった。</p> <p><b>2 増減要因</b> 【増加】11月:3連休が1回多かったことによる増、2月:好天および屋内イベント効果による増、3月:キャラクターショー及び新規イベント効果による増。 【減少】4～6月:ふわふわドーム新設反動による減、8月:3連休天候不良による減、9月:休日数の減及びプール営業日数の違いによる減、1月:大雪による減。</p>
--------------------	---

# 令和7年度事業実績報告書

## 【 とっとり賀露かっこ館 】

### 1 事業概要

<p>(主な取り組み)</p> <p><b>1 サービスの向上に向けた取り組み</b></p> <p>①R6年度はクラウドファンディングで購入した体験用水槽を正常に稼働させることが出来なかったため、水流処理を施し、タッチングやえさやりなどの体験を稼働させられた。</p> <p><b>2 利用促進に向けた取り組み</b></p> <p>①昨年度、Xで実施した「四季の県魚大喜利コンテスト」を「四季の県魚川柳コンテスト」に代えて実施し県産魚のPRとかっこ館の認知向上に努めた。</p> <p>②SNSを活用して生き物の動画等を継続的に配信しフォロワー等の増加に繋がった。 (Xフォロワーは昨年の112%)</p> <p>③水族館を舞台にした人気フリーホラーゲーム「アクアリウムは踊らない」とのコラボ企画として、コラボイラストの掲示や売店でグッズの販売を行い、主にXでの投稿を通して新たな利用者層へかっこ館をPRした。</p> <p>④GWと秋を中心に縁日イベントを実施。</p> <p><b>3 地域・事業団施設との連携</b></p> <p>①鳥取環境大学の授業「鳥取グリーンベンチャー」の教育指導施設として、飼育展示やイベント運営について学生への指導に当たった。</p> <p>②鳥取港重要港湾50周年イベントである、鳥取港福フェスに出前を出店した。</p> <p>③2月に鳥取県産魚PR推進協議会と若松葉がいのゆで方、むき方教室を実施した。</p> <p>④昨年、鮮魚店と実施した「かこのトークセッション」について、今年度は県立博物館より学芸員を招き、かっこ館の飼育員と共にカニの生態講座を開催した。</p>	<p>(主な取り組みに対する結果の評価及び課題と対応方針)</p> <p><b>1 サービスの向上に向けた取り組み</b></p> <p>①R7年度は新体験水槽を適切に活用し、年間2,600人のタッチング参加者(R6年度比150%)を目指したが目標には届かなかった(同132%)。ただし、えさやりなどの体験者は増え参加料収入全体では同比110%となった。また、幼稚園・保育園・小学校の団体向けに「生き物タッチング体験」を実施した。園外保育や校外学習など団体で利用できる予約制のメニューを新設し、まだ予約件数は少ないが徐々に増えてきている。</p> <p><b>2 利用促進に向けた取り組み</b></p> <p>①川柳コンテストに代えた影響もあって、Xについて、フォロワーは伸びた。しかしフォトコンを実施したInstagramは伸びが少ない。Instagramは地元利用者が多い為、今後は県外のフォロワー等を増やす方が必要。</p> <p>②SNSによる動画配信等が注目されており、注目された投稿は全国ネット情報番組でも取り上げられるなど、大きな反響に繋がった。館内アンケートの結果から来館につながっていると推測されることから継続しつつ、今後はSNSイベント等も実施しさらなるフォロワーの獲得を目指す。</p> <p>③入館者の増に貢献した。また、グッズの販売も売行きがよく、特に限定発売したTシャツがよく売れた。ただし転売が見受けられるのでフリマサイトに対し販売差止め依頼など転売対策も行っているが、いたちごっこが続いている。</p> <p>④収益の確保はもちろんの事、雰囲気・導線・線路作りも含めて縁日を実施した。1日10万円近い売り上げのあった日もあり、家族連れを中心ににぎわった。</p> <p><b>3 地域・事業団施設との連携</b></p> <p>①施設として直接的なメリットは少ないが、観光事業団としてのリクルート活動のため引き続き行ってゆく。</p> <p>②出前の他に、館内でも「五輝星の重さ当てクイズ」やズワイガニの生息域の水温を体感できる「冷水がまん大会」を開催し、相乗効果のある取り組みを行った。大きな盛り上がりにはつながらなかったが、関係者の目には止まり地域連携としての取り組みは行えた。</p> <p>③平日2日間開催し利用者は多くなかったが、利用者には十分説明することができ、利用者の満足度は高く、水産業や文化について伝えることが出来、水産の魅力について伝えることが出来た。</p> <p>④30名限定であったが、満員となった。昨年の鮮魚店とのトークセッションとは打って変わり、カニの生態中心の話となった。ワークショップやカニの化石に触れるコーナーなどもあり、カニの魅力を参加者に伝えることが出来た。</p>
--	--

### 2 入館者一覧表(年間計画、実績)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和7年度目標(人) A	17,500	22,000	17,000	27,000	40,000	23,000	19,500	20,500	16,000	14,500	9,000	19,000	245,000
令和7年度実績(人) B	17,310	22,697	18,381	23,239	38,399	21,338	18,112	24,276	16,238	10,210	12,901	21,840	244,941
対目標比率(%) C=B/A	98.9%	103.2%	108.1%	86.1%	96.0%	92.8%	92.9%	118.4%	101.5%	70.4%	143.3%	115.0%	100.0%
令和6年度実績(人) D	13,661	20,353	19,231	25,694	39,331	24,967	18,080	19,647	14,820	15,941	9,417	20,539	241,681
対6年度比率(%) E=B/D	126.7%	111.5%	95.6%	90.5%	97.6%	85.5%	100.2%	123.6%	109.6%	64.1%	137.0%	106.3%	101.4%

<p>入館者の推移、増減要因</p>	<p><b>【入館者の推移】</b> 対前年比 101.4% 対目標比100.0%</p> <p><b>【要因】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・夏ごろまでは県美や道の駅北条の開館や、関西万博の影響のためか伸び悩んだ月が多かった。</li> <li>・GWは縁日を実施し入館者が伸びた。</li> <li>・秋は外部イベントの実施が多く伸びた月が多かった。</li> <li>・冬はSNSの投稿が話題になった事やTV番組のロケなどがあり伸びた月が多かった。</li> </ul>
--------------------	---

(単位:人)

# 令和7年事業実績報告書

## 【 青谷かみじち史跡公園 】

### 1 事業概要

(主な取り組み)	(主な取り組みに対する結果等)
<p>(1)とっとり弥生の王国発展に寄与 鳥取県、むきばんだ史跡公園との連携を強化し、イベント、学習体験企画、誘致事業等のあらゆる分野で取り組みを進める。</p> <p>(2)史跡を活かした地域振興 共同事業体のネットワークを生かし、誘客を図る。青谷周辺、県内外の広域な文化・観光施設等と連携・協力し地域振興につながる取り組みを推進する。</p> <p>(3)情報発信事業 WEBサイトやSNS等のメディアの運用を通じ、それぞれを融合させ、信頼性、信用を確立し、評判(レビュー)を高める。WEBサイトのアクセス解析と流入分析による改良、グーグルビジネスプロフィールや各種SNSとの相互関係を最適化することで、広報におけるPDCAサイクルを確立する。</p> <p>(4)活用推進事業 弥生文化を体験できるテーマやニーズに沿ったメニューを提供する。自然環境を生かし、園内で収穫した植物を使つての弥生体験メニューを実施し、「リアル」なモノづくりや、弥生時代のなりわいを感じられる企画の開発に取り組む。</p> <p>(5)維持管理業務の一部内製化 IPM管理に関し、マニュアル作成と運用、データ収集などについて、県立博物館の例を参考に、一部指導を受けながら取り組む。空気環境測定結果をフィルター管理と連動させるなどノウハウの蓄積に取り組む。</p>	<p>(1)とっとり弥生の王国発展に寄与 鳥取県及びむきばんだ史跡公園と連携して、イベント出展を中心に連携を行った。むきばんだ史跡公園と「定例協議」や「共同看板の設置」など2園連携を強化した。本年は、共同広告出稿(まっぶる鳥取)、三朝情報ファイル等の取り組みを実施した。続いて、「とっとり弥生の王国」セールスプロモーション(山陽)を県所管課、観光連盟、両史跡公園で連携して実施し、ツアー造成にもつながった。令和8年度は、四国方面を予定している。「とっとり弥生の王国」のブランド化に取り組む一環でインバウンド誘客にも連携して取り組むこととなった。</p> <p>(2)史跡を活かした地域振興 大手旅行会社テーマ型ツアーの設定・催行の実績を残せた。また、公民館・老人クラブなど一般団体の見学が増加し、周辺施設への立ち寄りが組まれるなど地域振興の一助となった。令和8年度は、ロケーションを活用したバイクイベント、地元伝統芸能や地域イベントの誘致等に取り組んでいく。公園内の「弥生のはたけ」や駐車場、沿道等のアダプトプログラムについて、鳥取市や愛ファクトリーと連携して実施しており、範囲を拡大する方針である。</p> <p>(3)情報発信事業 各種SNSの運用とグーグルビジネスプロフィールに注力。クチコミ評価4.2を獲得(クチコミ数105) 投稿者全件への返信を実施している。クチコミ内容の分析も実施したがおおむね良好である。催事の種類、ターゲットによってSNS広告、折込チラシ、専門誌掲載等を選択実施している。</p> <p>(4)活用推進事業 屋内体験メニューは、類似施設と比較しても一定の目途がついた。屋外での史跡公園の環境を生かしたメニュー開発が課題として、田植えや稲刈りなど園内を活用した体験イベントに取り組む、好評を得た。令和8年度には夏休みから秋に向けて史跡公園内を活用したイベント(響の森と星空キャラバン、キャンプ体験、魚のつかみ取りなど)を実施する予定である。</p> <p>(5)維持管理業務の一部内製化 IPM含む防除マニュアルの整備完了。データ収集については、コストとリソースのバランスを考え、外注も視野に入れている。日常清掃を中心に、屋内での維持管理業務は内製化完了。空気環境測定については、専門業者との連携で文化財基準での空気環境の正常維持への取り組みを加速させた。空調管理についても、季節ごとの設定や温湿度により対応など、管理者でなければ蓄積できないデータが集積してきている。</p>

### 2 入園者一覧表(年間計画、実績)

(単位:人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和7年度目標(人) A	3,500	5,500	2,500	3,000	5,000	3,000	5,000	4,000	1,000	500	500	2,500	36,000
令和7年度実績(人) B	1,642	3,577	2,799	2,437	2,662	1,498	4,171	4,692	1,483	805	1,065	2,929	29,760
対目標比率(%) C=B/A	46.9%	65.0%	112.0%	81.2%	53.2%	49.9%	83.4%	117.3%	148.3%	161.0%	213.0%	117.2%	82.7%
令和6年度実績(人) D	3,163	4,842	2,718	2,674	4,119	5,697	2,573	4,224	791	849	780	2,867	35,297
対6年度比率(%) E=B/D	51.9%	73.9%	103.0%	91.1%	64.6%	26.3%	162.1%	111.1%	187.5%	94.8%	136.5%	102.2%	84.3%
入館者の推移、増減要因	<p>【入園者の推移】 対目標比 82.7% 対前年度比84.3%</p> <p>【要因】 (減少要因)開園効果の減少。ライト層の離脱。ねんりんピック、青谷音楽祭が未開催。 (増加要因)催事での集客(あおいち、かみじちフェスタ) 一般団体、ツアーの一部増。</p>												

# 令和7年度事業実績報告書

## 【 氷ノ山自然ふれあい館 】

### 1 事業概要

<p>(主な取り組み)</p> <p><b>1 自然体験プログラム等の充実</b></p> <p>① イスワンホールを利用した企画展の開催</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>夏企画展「ダンボル展」や秋企画展「くますけさんのイラスト展」を開催した。</li> <li>夏企画展では工作コーナーを設けて、毎日自由に作品作りができるようにした。</li> </ul> <p>② 大人(中高年層)向けのイベントを開催し、幅広い集客に取り組んだ。</p> <p><b>2 利用促進に向けた取り組み</b></p> <p>① 鳥取市立の小学校へイベントチラシを配布することができなくなり、代わりに児童クラブへ配布を行うようにした。</p> <p>② 放課後等デイサービス事業所へ入館無料や雨天時でも遊べる等のPR資料を配布した。</p> <p>③ 鳥取砂丘の観光客を響の森へ誘導するため、鳥取砂丘から響の森までのアクセスを動画配信したり、砂丘ビジターセンターで出前PRを行ったりした。</p> <p><b>3 地域、団体等との連携</b></p> <p>① 戦略的パートナーシップであるキャンパーズビレッジの管理棟に響の森のPRポスターや特典付きカードを設置。</p> <p>② 若桜町の図書館やカフェ等と連携して「青空ブックカフェ」を開催し、屋外にハンモック等を設置した図書コーナーやカフェコーナーを開催した。</p> <p>③ 若桜町観光教会や地元施設と連携して、地元イベントへの出店や氷ノ山の自然紹介の展示等を行った。</p> <p>④ 若桜の街中歴史散策と氷ノ山の自然体験を組み合わせた宿泊研修を紹介するチラシを作成し、鳥取市内の小学校に配布した。</p> <p><b>4 環境に配慮した事業活動への取り組み</b></p> <p>① 希少な植物であるコキンバイやマイヅルテンナンショウの保護管理事業を県の補助金事業として取り組んだ。</p> <p>② アカハライモリ等が棲息する響の森近くの道路側溝の環境保全に取り組んだ。</p> <p>③ 定期的にチョウのモニタリング調査に行った。</p>	<p>(主な取組に対する結果の評価及び課題と対応方針)</p> <p><b>1 自然体験プログラム等の充実</b></p> <p>① 夏と秋の企画展の参加者数は、それぞれ4,577人(対前年比119%)と2,447人(対前年比54%)。夏の企画展で実施した工作コーナーでは、様々なお面を作る様子が見られた。秋の企画展では、イラスト展示だけではなく、実物や体験型の展示を行うことで観覧者の興味を引くことができた。</p> <p>② 内容によって参加者数にばらつきがあったが、響の森や氷ノ山の自然を知ってもらう機会となった。</p> <p><b>2 利用促進に向けた取り組み</b></p> <p>① 小学生家庭全てはカバーできておらず、鳥取市教育委員会の情報サイトを活用してPRしている。</p> <p>② 夏休みや雨天時の来館が増えた。</p> <p>③ アクセス数が通常よりも大幅に増え(約4,000表示)、またや響の森への検索数も増える等新規開拓につながった。今後は若桜街中の観光客等の誘導に取り組む。</p> <p><b>3 地域、団体等との連携</b></p> <p>① GWや夏休みにキャンパーズビレッジ利用者の来館が増えた。</p> <p>② 景色を眺めながらのんびりと読書や飲食を楽しみ、氷ノ山の自然を満喫して頂いた。</p> <p>③ 地元の方に氷ノ山の自然や響の森について知って頂けた。</p> <p>④ 学校のカリキュラムに即した内容を提案し、出前授業も含めた利用拡大に繋げる。</p> <p><b>4 環境に配慮した事業活動への取り組み</b></p> <p>① コキンバイ自生地での侵入防止柵の設置や自生地以外での保護として、響の森の敷地内でマイヅルテンナンショウの栽培に取り組んだ。</p> <p>② 「自然ふれあいロード」と名付けて、クルー(ボランティア)と一緒にイモリの調査や除草などを行った。</p> <p>③ 時期ごとに現れるチョウの種類を把握することができた。また得られたデータは全国規模のデータベースに提供した。</p>
---	---

### 2 利用者一覧表(年間計画、実績)

(単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和7年度目標(人) A	2,650	7,250	3,350	5,500	7,100	8,200	5,250	4,550	820	1,330	1,370	630	48,000
令和7年度実績(人) B	1,560	5,260	2,805	4,604	6,967	7,692	2,284	3,991	1,002	1,998	2,583	4,588	45,334
対目標比率(%) C=B/A	58.9%	72.6%	83.7%	83.7%	98.1%	93.8%	43.5%	87.7%	122.2%	150.2%	188.5%	728.3%	94.4%
令和6年度実績(人) D	1,720	4,206	2,428	4,184	5,766	5,168	4,615	5,188	1,468	1,656	941	834	38,174
対6年度比率(%) E=B/D	90.7%	125.1%	115.5%	110.0%	120.8%	148.8%	49.5%	76.9%	68.3%	120.7%	274.5%	550.1%	118.8%

#### 利用者の推移、増減要因

- (1) 利用者増の時期及びその要因
- 5月: GWのイベント内容を昨年度より変更したことによる。6月: イベント出店や学校出前による。
  - 7、8月: 猛暑による避暑地としての入館者及び企画展の工作コーナーへの参加による。9月: 山フェスの開催時期の違い(9月: 増/10月: 減)
  - 1~3月: フォトコンテスト作品展の開催と2月下旬から鳥取市立図書館情報コーナーでの「氷ノ山の自然」の展示による。
- (2) 利用者減の時期及びその要因
- 4月: GW食イベントの昨年度との開催時期の違い(昨年度4月、今年度5月)。10月: 山フェスの開催時期の違い(9月: 増/10月: 減)
  - 11月: 室内イベントの昨年度との開催時期の違い(昨年度11月~、今年度12月~) 12月: 昨年度は秋企画のWEB展示を実施したが今年度は行わなかった。

# 令和7年度事業実績報告書

## 【 東郷湖羽合臨海公園 】

### 1 事業概要

(主な取り組み)

#### 1 スポーツレクリエーション施設の機能向上

##### ・シニア教室向け教室の充実

南谷地区の再整備にともない体力測定広場が廃止となるため、シニアの体力づくりに関わる機能の維持が求められる。現在の教室に追加して、シニア向けの運動教室を開催する。

#### 2 アクティビティの提供

東郷池でのカヌー・サップの体験メニューの提供を継続して実施。ネットでの露出を強化し、県外からの集客を図る。親子カヌー体験教室、サンセットカヌー体験等のイベント要素を加えてすそ野の拡大を目指す。

#### 3 公園の魅力充実

地盤沈下による公園の冠水により、あやめ池公園内の花しょうぶをはじめ植栽に悪影響が出ている。冠水自体は困難なため、植栽面での見どころを維持するため整備を行う。株式会社チュウブと共同企業体として連携し、日常の公園管理をはじめ、公園づくり事業の推進により、公園の魅力向上に資する。

#### 4 公園を通じた地域交流・地域活性の促進

地元・湯梨浜町をはじめとした周辺市町、団体との連携を深め、公園を利用した事業、イベントの開催に協力し、地元の活性化に貢献する。

(主な取り組みに対する結果の評価及び課題と対応方針)

#### 1 スポーツレクリエーション施設の機能向上

シニア向けの教室を3講座新規に立ち上げて実施し利用者の増加に繋がったが、定着しなかった内容もあり、随時見直しをしながら改善に努める。

#### 2 アクティビティの提供

サップの体験動画を作成しHP、YOUTUBE等でPR、夏休みに地元の小学生を対象に親子カヌー教室を開催するなど取り組んだが、東郷池内での競合もあり全体では微増にとどまった。アクティビティ予約サイトの活用、チラシの配布強化等で利用増に取り組む

#### 3 公園の魅力充実

##### ・藤津地区の植栽整備

あやめ池公園が地盤沈下により6月から長期にわたり冠水し、7、8月に東郷池の水質悪化、高温の影響により、花菖蒲、フジ、スイレン等の植物が大規模に枯死した。当初の計画を変更し、花菖蒲の冠水対策、復元に注力した。8年度に県の補助もあり花菖蒲の補植を前倒して実施。園全体の復元にはあと2年程度はかかる見込み。

##### ・憩いの多目的スペース整備

南谷地区再整備に伴う、県整備による噴水広場の新設に合わせて、旧こども広場に芝を張り「いいの広場」として整備。多目的スペースとして活用し、バーベキュー利用の受入も行う予定

#### 4 公園を通じた地域交流・地域活性の促進(地域連携)

- ①湯梨浜町の主催するスポーツ大会に協力、天女ウォーク、ガストロノミーには実行委員会として参画した他、アダプト事業、町主催(地域おこし協力隊)のマルシェイベントにも会場協力した。
- ②東郷・はわい温泉旅館組合、湯梨浜町観光協会による教育旅行の受入、花火打ち上げ等に協力
- ③地元のマルシェ開催グループと連携し、スポーツセンター内で「ぼかぼかマルシェ」を主催
- ④ハワイ夢広場の遊び場一般開放を実施し、夏季の猛暑を避けた遊び場の提供に貢献
- ⑤NPO未来のウォーキングイベント、定例会への協力、当園主催のウォーキングに広報面で協力いただいた。また東郷池メダカの会と共同で環境教育の教室、ボランティアを実施した。

#### 5 東郷湖羽合臨海公園パークビジョン

南谷地区再整備事業により、噴水広場、キリン公園の子ども対応のトイレの整備7年度完了、8年度は夢広場駐車場の拡大、9年度にボルダリング広場の整備等が控えており、引き続き県と連携しながら公園の利用促進、地域活性につながる公園の充実に繋げていくよう努める。

### 2 入園者一覧表(年間計画、実績)

(単位:人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和7年度目標(人) A	19,000	26,000	25,000	17,000	19,000	22,000	26,000	21,000	20,000	12,000	11,000	16,000	234,000
令和7年度実績(人) B	20,517	27,562	21,217	15,720	20,999	19,223	26,700	20,482	18,209	11,933	11,534	18,357	232,453
対目標比率(%) C=B/A	108.0%	106.0%	84.9%	92.5%	110.5%	87.4%	102.7%	97.5%	91.0%	99.4%	104.9%	114.7%	99.3%
令和6年度実績	18,611	25,677	23,580	15,636	18,066	21,370	24,129	19,639	18,550	14,828	11,879	18,457	230,422
対6年度比率(%)	110.2%	107.3%	90.0%	100.5%	116.2%	90.0%	110.7%	104.3%	98.2%	80.5%	97.1%	99.5%	100.9%

入園者の推移、増減要因	<p>・<b>有料施設利用者</b> 81,296人(対前年105%)                  主な内訳:トレーニングルーム29,002人(対前年105%)前年度に引き続き増加傾向が続いている。女性の利用者が増加。使用料収入も増。南谷多目的広場(6,041人)も前年度からの増加傾向を持続(対前年126%)、夢広場(13,558人)は大型イベントの利用影響で大幅増(対前年127%)。一方、体育館(22,535人)、テニスコート(3,785人)は1割強減。体育館は6、7月の屋根及び外壁改修工事による利用制限の影響。テニスコートは有料利用は増も、学生等の減免での利用者数減。教室参加者:4,461人(対前年103%)体育館利用制限の影響あったが、シニア向けの新教室立ち上げにより全体では微増</p> <p>・<b>無料の公園利用者</b> 147,926人(対前年99%) あやめ池公園が花菖蒲の開花遅れ、長期冠水により1割以上減、イルミネーションは年末年始の積雪により減(ただし内容的には好評)</p>
-------------	---

# 令和7年度事業実績報告書

## 【 中国庭園 燕趙園 】

### 1 事業概要

(主な取り組み)	(主な取り組みに対する結果等の評価及び課題と対応方針)
<p><b>1 入園料無料化試行</b>                      ①第3期:5月16日～7月15日、第4期:12月1日～1月31日の計4か月間で実施。                      ②雑技ショーの有料化や園内屋台運営(冬期夜間を含む)を行う。                      ③道の駅で湯梨浜町商工会と連携し、町内の商品を集めた「商工会フェア」を開催。</p> <p><b>2 夏期特別イベントの開催</b>                      ①新日本海新聞社との夏催事「生きものさわっちゃ王国」を開催。(1か月間)</p> <p><b>3 燕趙園30周年記念事業の実施</b>                      ①式典、地元団体や中国関連団体による公演、昼食会を実施。(8月30日)                      ②30周年記念事業として中国関連の展示会や花火時の地元伝統芸能公演を行う。</p> <p><b>4 公園管理者の多様な主体の参画促進、花の見どころ整備</b>                      ①公園管理者の多様な主体の参画利用の募集を行う。                      ②長和田公園駐車場1か所について花の見どころ「宿根草花壇」の整備。</p> <p><b>5 地域連携によるウォーキング大会等の推進</b>                      ①中華コスプレ大会(5月、10月)、SANIN未来ウォーク(6月)、鳥取うみなみ250(6月) ガストロノミーウォーク(9月)、天女ウォーク(10月)、100kmウォーク(11月)、愛らぶ東郷池ノルディックウォーク(3月)など地域連携を促進、地域への誘客を図った。                      ②臨海公園と花を愛でるウォーキング大会(4月、9月)に取り組む。                      ③地元本屋主催の汽水空港フェス(10月)が多目的広場で開催され2,000人集客。</p>	<p><b>1 入園料無料化試行</b>                      入園料無料化試行期間の入園者数は前年同時期78.8%(△4,481人)となった。初年度効果が薄れたことが1番の要因。新聞記事等の掲載はなくなったが、TV露出はR6年度以上に増加していた。</p> <p><b>2 夏期特別イベントの開催</b>                      「生きものさわっちゃ王国」入園者数14,169人                      R8年度も動物・ふれあいをテーマに、夏休み期間の集客を図る。</p> <p><b>3 燕趙園30周年記念事業の実施</b>                      ①駐大阪総領事代行など中国関係者に加え県、地元中国関連団体や地域の方などの交流の場を提供。                      ②中国文化センターとの共催の展示会・実演会をこの機会を含め3回(6月、9月、1月)実施。日中関係の不安定化により、今後を懸念。</p> <p><b>4 公園管理者の多様な主体の参画促進、花の見どころ整備</b>                      ①R7年度は多様な主体となる団体を町報により募集を行う。                      ②芝桜の岡上部が雑草の浸食が目立ち、優先させて補植を行った。第2弾の「宿根草花壇」の整備はR8年度に行う予定。</p> <p><b>5 地域連携によるウォーキング大会等の推進</b>                      ①地域の大会の多くは、実行委員会のメンバーとして、また事務局として参加。定員に近い参加者数で安定している。                      ②主に近い中華コスプレ大会では、開催日などの情報開示を早め集客に努める。                      ③地域利用による多目的広場、芝生広場の活用を推進していきたい。</p>

### 2 入園者一覧表(年間計画、実績)

(単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和7年度目標(人) A	4,000	8,100	6,200	7,500	12,000	4,000	6,500	6,500	4,400	2,800	2,500	5,500	70,000
令和7年度実績(人) B	3,748	6,388	5,318	6,571	12,292	4,701	5,322	5,760	4,675	2,314	2,881	5,180	65,150
対目標比率(%) C=B/A	93.7%	78.9%	85.8%	87.6%	102.4%	117.5%	81.9%	88.6%	106.3%	82.6%	115.2%	94.2%	93.1%
令和6年度実績(人) D	3,749	8,094	6,632	6,317	13,235	5,893	5,302	4,136	4,138	4,073	1,632	4,428	67,629
対6年度比率(%) E=B/D	100.0%	78.9%	80.2%	104.0%	92.9%	79.8%	100.4%	139.3%	113.0%	56.8%	176.5%	117.0%	96.3%

入園者の推移及び増減要因	<p>R6年度と同様に入園料無料化試行を計4か月間実施。(5月16日～7月15日、12月1日～1月31日)                      入園料無料試行期間中(4か月間)が4,481人の減。入園料無料化試行の初年度効果がなくなったことによる反動。一方、8か月間の有料入園期間は2,002人の増。また夏期イベント「生きものさわっちゃ王国」は14,169人とここ3か年並みの集客。また2～3月は韓国人観光客増が目立った。</p>
--------------	--

# 令和7年度事業実績報告書

## 【鳥取二十世紀梨記念館】

### 1 事業概要

(主な取り組み)

梨に関する産業、歴史及び文化への県民理解を深めるとともに、観光及び果樹振興に資するための取り組みを実施。

令和7年度は鳥取県立美術館のオープンもあり、鳥取県中部にスポットを向け、夏の期間に地元イラストレーター書下ろしによるイラスト展「くらし旅日記」を開催。秋には梨ガーデンにやってきた動物や鳥の写真展「梨ガーデンの珍客」を開催。夏休み期間中の親子向け夏休み自由研究教室は新規の2講座を追加。また食べくらべをはじめとする入館者増対策、ネット通販の販売増対策についても過去の反省を踏まえ、様々な策を試しながら取り組んだ。

#### 1 魅力発信

- ①時季を問わず、一年中3品種の梨の食べ比べができることをセールスポイントとして集客促進を行った。
- ②HPのトップ画面に「本日の梨の食べくらべ」情報を掲載。
- ③地元イラストレーター書下ろしによるイラスト展「くらし旅日記」を開催。鳥取県立美術館と合同で夏季イベントチラシを作成し、新規エリアの鳥根県全域と岡山県北部への新聞折り込みを行った。
- ④「梨の皮むき大会」では、皮の長さを測定する様子をギャラリーから見えやすく改善。
- ⑤梨ガーデンにやってきた動物や鳥の写真展「梨ガーデンの珍客」を開催。

#### 2 イベントの充実

- ①毎月最終日曜日に開催する無料感謝デーを継続実施し、入館者増加及び地域貢献に努めた。
- ②子供も楽しめるよう多様なイベントを開催し、魅力向上に取り組んだ。また、地元食育グループと連携したスイーツ体験を月1回から2回に増やし参加しやすくした。
- ③梨ガーデンにおいて、梨狩りなど直接梨に触れる体験学習イベントを開催した。
- ④地元のイラストレーターとのコラボした展示イベントを開催した。
- ⑤屋内イルミネーションを実施した。
- ⑥梨に関する出前講座を実施した。

#### 3 梨農家支援の充実

- ①「鳥取梨つくり大学」の開講を継続して専門知識の普及を図った。
- ②「梨のなんでも相談室」を常設して技術専門員が対応した。

(主な取り組みに対する結果の評価及び課題と対応方針)

#### 1 魅力発信

- ①大きなアピールポイントとなっており、集客促進に寄与した。また「梨漫遊記」と題し、3品種のうちの1品種を他県の梨とした食べくらべイベントを実施(2日間)。特別編として新年に氷温貯蔵した県産梨(二十世紀梨)の食べくらべを実施(1日間)、シーズン外で実施することで話題作りとなった。
- ②お客様が「本日の食べくらべ」の3品種をタイムリーに確認できるようになった。
- ③イラスト展コラボグッズを売店で販売し、収入面でも効果があった。
- ④大会が大変盛り上がり、メディアにも取り上げてもらった。
- ⑤来館者の感想から「次回を楽しみにしています」など大変好評で梨記念館の新たな魅力発見となった。

#### 2 イベントの充実

- ①無料感謝デーは通年で12日開催し、17,711人の入館者(対前年2,135人増)となり、地域イベントとの相乗効果があり、地域に定着した日となっている。
- ②GW、ハロウィン等にスタンプラリー、体験型ワークショップ(2,676件参加)を中心に実施し来館者の満足度向上に貢献した。
- ③交配体験、摘果・小袋かけ、大袋かけ、梨狩り体験を実施し、ガーデンでの梨を育てる体験イベント全体で436人の参加があった。
- ④イラスト展開催期間中に、ライブ作品制作、ワークショップを実施し、制作者と来館者のふれあいの機会を設け楽しんでいただいた。
- ⑤寒くなく、昼間に見られるイルミネーションとして実施。クリスマスまでと以降で館内の装飾を替え、演出照明を活かしながら回廊等を装飾した。
- ⑥県内外からの講師依頼を受け、梨に関する出前講座を実施。

#### 3 梨農家支援の充実

- ①「鳥取梨つくり大学」を年12回開催、70人の入学者(内新規に27人)があり、梨生産農家や新規就農希望者に対して専門知識を普及するとともに情報交換の場を提供した。
- ②「梨のなんでも相談室」で梨栽培の技術相談を受けることにより、梨農家等への支援に貢献した。

### 2 入館者一覧表(年間計画、実績)

(単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和7年度目標(人) A	9,000	12,000	9,000	12,000	25,000	19,000	13,000	13,000	7,000	7,000	8,000	11,000	145,000
令和7年度実績(人) B	10,389	13,341	12,222	14,825	31,037	19,710	15,694	15,670	7,934	5,626	8,130	14,155	168,733
対目標比率(%) C=B/A	115.4%	111.2%	135.8%	123.5%	124.1%	103.7%	120.7%	120.5%	113.3%	80.4%	101.6%	128.7%	116.4%
令和6年度実績(人) D	8,599	10,917	8,419	11,878	24,437	19,394	12,816	13,499	6,818	6,332	6,066	13,460	142,635
対6年度比率(%) E=B/D	120.8%	122.2%	145.2%	124.8%	127.0%	101.6%	122.5%	116.1%	116.4%	88.9%	134.0%	105.2%	118.3%

#### 【推移】

・月単位では1月を除きすべての月で前年を上回る入館者となった。年間で168,733人の入館者で、開館以来最も多かった。前年比では26,098人の増(118.3%)となった。

#### 【要因】

・近隣の鳥取県立美術館オープン効果などによる中部地域への観光入込もあり、個人、団体、校外学習など全ての利用種別について大幅に増加した。  
・外国人観光客も16,504人と対前年では5,735人の増となった。

入館者の推移、増減要因

# 令和7年度事業実績報告書

## 【 夢みなどタワー 】

### 1 事業概要

(主な取り組み)

#### 1 地域との連携と観光振興

- ①春休みの大型イベントについて、自主開催(日本海新聞名義共催)の「ダンボール遊園地」を開催。
- ②日本海新聞との夏の連携イベントとして「魔法の美術館」を開催。
- ③地域のこどもの遊び場として、貸館予約がない日の多目的ホールを無料開放。
- ④地域団体のイベントを支援し、「にゃんにゃんフェスタ」「遊ぼうデー」の他に複数のイベントを共催。
- ⑤国際交流の日は、境港市のベトナム人グループと連携して初めて「ベトナムの日」を開催。
- ⑥夢みなど公園まつり実行委員会の一員として春・夏に「公園まつり」を開催。

#### 2 関西万博レガシー展示にかかる全面協力

- ①3Fに関西パビリオン鳥取ゾーンのレガシー展示「とっとりサンドパビリオン」を移設することが決定したため、県・業者と連携しながら人的支援、物的支援を実施。
- ②サンドパビリオン内で体験できる、虫眼鏡形デバイスを使った「鳥取魅力名探偵」というアクティビティについても運営を受託。

#### 3 施設の魅力アップへの積極投資

- ①計画的な外観修繕「タワー若返りプロジェクト」に基づき、屋外サークルベンチの更新などを実施。
- ②修繕や備品購入等も積極的に実施。

(主な取り組みに対する結果の評価及び課題と対応方針)

#### 1 地域との連携と観光振興

【結果と評価】

- ①春の「ダンボール遊園地」は自主開催に戻ったが、タワーのみで、円滑な運営ができた。来場者数は、GWに伸び悩んだが、通期では前年を上回ることができた。
- ②夏の「魔法の美術館」は、計画を上回る4万人を集めたが、万博の影響によって関西・山陽からの集客に苦戦した。一方で水あそびテラスなどを拡大したことで、猛暑を背景に山陰両県からの来館者は好調であった。
- ③多目的ホールの無料解放は地域の子育て家庭のリピーターで毎日にぎわうようになったほか、放課後デイサービスや保育園の遠足など、団体での利用も増えた。
- ④恒例の「にゃんにゃんフェスタ」に加え、初開催の団体によるマルシェも複数実施。「遊ぼうデー」は、JAFと連携したモータースポーツ祭りや、きつぷおしごとタウン など、さまざまなバリエーションも生まれた。
- ⑤ベトナム国際交流の日では多くの来場があり、県内で働くベトナム人と地域住民の交流が進んだ。
- ⑥クイズ&スタンプラリー、こども縁日を開催し、夢みなど公園一帯への集客や周遊を促す効果があった。

【課題と対応方針】

夢みなど公園まつり実行委員会との連携は、みなど街商店街の撤退・さかなセンターの破綻により周遊効果が限定的となっている。さかなセンター跡地は食品工場の操業が決定しており、公園と分断されないような連携を検討。

#### 2 関西万博レガシー展示にかかる全面協力

- ①秋に設置が決定して以降、綿密に打ち合わせを重ね、オープンを実現した。既存展示の移設やPRイベントなど人員・費用ともにタワー側が積極的に協力を行うことで、短期間で質の高い展示を実現。来場者の大幅増につながった。
- ②「鳥取魅力名探偵」は当初デバイスの数が不足していたが、タワー側でデバイスの廉価版を開発して増産することで希望者全員が体験できる体制を取り、多くの利用があった。

【課題と対応方針】

デバイスの耐久性も当初より向上しているがまだまだ改良の余地がある。夏休みまでにケースの形状を変更予定。

#### 3 施設の魅力アップへの積極投資

- ①サンドパビリオンの移設に合わせて3Fベンチやキッズコーナーカーペットの張替などを実施。パビリオンOP以降は3Fの利用者が激増したため、多くの来館者にきれいな設備を提供することができ、効果的な取り組みとなった。
- ②下半期に予定していた修繕工事などは、職人が手配できず翌年度に持ち越しとなってしまった。

【課題と対応方針】

建設資材や人員の確保が困難となっており、計画的に早期発注が必要となっている。

### 2 入館者一覧表(年間計画、実績)

(単位:人)

区分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和7年度目標(人) A	12,000	10,000	6,000	15,000	26,500	5,500	6,000	7,000	6,000	3,000	4,000	11,000	112,000
令和7年度実績(人) B	12,823	8,673	6,377	17,612	35,143	7,512	3,973	6,546	7,409	6,351	9,343	15,537	137,299
対目標比率(%) C=B/A	106.9%	86.7%	106.3%	117.4%	132.6%	136.6%	66.2%	93.5%	123.5%	211.7%	233.6%	141.3%	122.6%
令和6年度実績(人) D	11,215	9,534	4,842	25,349	42,755	5,357	4,834	3,731	5,694	4,307	3,326	14,106	135,050
対令和6年度比率(%) E=B/D	114.3%	91.0%	131.7%	69.5%	82.2%	140.2%	82.2%	175.5%	130.1%	147.5%	280.9%	110.1%	101.7%

入館者の推移、増減要因

【対目標比】122.6% 【対前年比】101.7%

春の大型イベント(ダンボール遊園地)、夏の大型イベントは(魔法の美術館)はともに計画を上回る成功ではあったが、昨年夏のサマーアクアリウムに比べると、数字を落とす結果となった。伸び悩んだ要因として関西万博の影響で境港市への入込が減少していたことがあげられる。夏だけで昨年比2万人の減少となったが、秋以降は中型イベントの回数を増やして徐々に挽回、1月末のサンドパビリオンOP以降は大幅増となり、最終的に好調だった昨年をさらに上回る13.7万人となった。これは平成27年以来10年ぶりの水準である。

# 令和7年度事業実績報告書

## 【とっとり花回廊】

### 1 事業概要

(主な取り組み)

#### 1 植栽

①令和7年度は、「ディスカバリー～新たな魅力発見～」をテーマに、季節ごとに移り替わる花々を絶え間なく回り続ける風車に見立て、いろいろな視点から新たな発見ができる展示とした。東バラ園は英国式石積み(ドライストーンウォーリング)の花壇に改修。また県内産切り花を用いてシンテッポウユリとアスター、ストックの切り花展を開催した。鳥根大学作出の長期開花性ツツジや(一財)春めき財団の芳香性サクラ”春めき”の植栽を行い、各団体と連携しつつ新たな見どころ創出を行った。

#### 2 催事

①春から初夏にかけて、春の感謝祭、GWイベント、ばらまつり、ゆりまつりなどを開催。夏休み期間は小中学生を入園無料とし、自由研究に役立つ観察会などを企画、夜間営業日を中心にイベントを実施した。秋には地元作家、児童による壁画公開製作プロジェクト「はっけんの丘」を企画し、新たな見どころを創出。  
②フラワーイルミネーションは米子高専との共同研究に取り組み、AIを活用して美しさと楽しさを演出。町、地域団体と協力し、竹あかりを製作展示した「かぐや祭」を実施し、イルミネーション中も展示した。  
③地元団体等による駐車場でのイベント開催に協力し、コンサートやステージイベント、巡回ラジオ体操、農機具展示会などの利用があった。また、令和6年度に続き「とっとり花火回廊」を開催した。

#### 3 広報

①春やイルミネーションの時期にはTVCMの実施や番組誘致、折込チラシを中心にイベント告知や花のみどころ情報の発信に努めた。またウェブのバナー広告や配信記事の実施など、多様な方法でPRに取り組んだ。専任スタッフを中心にホームページやSNS発信によるアプローチを行い、新規顧客層の獲得に努めた。

#### 4 営業

①好調な外国人観光客の受入れのため、セミナー参加やFAMツアー等関係者の視察対応のほか、海外での現地商談会への参加など、関係団体と誘客活動を行った。

#### 5 交流事業

①南部町が実施する二十歳の集いや誕生祝い事業など各種企画に協力した。また、広島マツダスタジアムや阪神競馬場に出店し、PRと特産品販売などを行った。松江市およびJAと連携し、大根島牡丹の特設販売を実施した。  
②包括連携協定を締結している米子高専とは、県内間伐材のベンチの寄贈、イルミネーションの共同研究、デジタル教室開催など様々な分野で連携を図った。  
③所属する日本植物園協会の2026年大会の開催地が鳥取県となり、開催担当園として園内整備を行った。またコロナ禍で途絶えていた牧野植物園、淡路夢舞台公苑温室との三園交流について2月に意見交換会を行った。

#### 6 売店・レストラン・屋台

①レストランは季節イベントやVtuberによるPR配信とコラボした特別メニューを提供。また、春の感謝祭では園芸資材等の特別販売も実施した。

(主な取り組みに対する結果の評価及び課題と対応方針)

#### 1 植栽

①年間テーマに沿って県内産の花壇苗を植栽し季節ごとに移り変わる花々を楽しみ、新たな発見ができる展示を実施した。  
花の丘などにおいて難防除病害による花壇苗の枯死が発生しており、土壌改良に取り組むとともに、鳥取大学と連携して、原因、対策の究明を図った。

#### 2 催事

①様々なイベントや展示会を実施し、新規顧客の開拓に取り組むとともに花き振興に貢献することができた。地域に根差した企画で、未来を見据えた来園層へのアプローチを行った。  
②イルミネーション期間中に約58,500名の来園があり、AIを取り入れたヨーロッパアンガーデンステージや初開催の竹あかりを中心に来園者の評価が高かった。  
③様々なイベントの開催に協力し、花回廊のPR及び集客につなげ、とっとり花火回廊では県内外から多くの来園があった。

#### 3 広報

①繁忙期の春や冬のイルミネーションにあわせてTVCMなど積極的に宣伝活動に取り組んだことが誘客につながった。新たな取り組みとして人気VtuberによるPR配信やSNSを有効活用し若年層の誘客を図った。

#### 4 営業

①営業活動によりインバウンド客は2年連続で1万人を超え前年度比131%と増加した。

#### 5 交流事業

①地域連携として南部町や地元企業と様々なイベントに取り組み地域の活性化に寄与した。今後も様々な形で園外への出店活動を継続し地域との交流を図っていく。  
②イルミネーションの共同研究では研究に参加した学生が取材されるなどマスコミにも多く取り上げられ集客とともにPR効果もあった。毎年恒例となっているベンチ寄贈は総数が100基を超え、散策する来園者に憩いの場を提供し、花回廊の風物詩となっている。  
③植物園協会の大会開催に向け、県と連携して計画、準備に取り組む。三園交流では継続して交流を図ることを確認し、今後も情報交換や相互交流に取り組んでいく。

#### 6 売店・レストラン・屋台

①レストランや屋台では季節ごとでメニューに変化を持たせ、イベントとの一体感を演出した。今後もメニューの見直しやオペレーションの改善を図り、利用率の向上を目指す。

### 2 入園者一覧表(年間計画、実績)

(単位:人)

区 分	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
令和7年度目標(人) A	49,600	54,800	22,800	14,600	14,900	13,800	24,400	35,500	39,100	17,400	5,300	22,800	315,000
令和7年度実績(人) B	33,881	42,404	16,853	10,674	9,136	9,998	22,834	33,043	29,679	7,160	5,837	14,476	235,975
対目標比率(%) C=B/A	68.3%	77.4%	73.9%	73.1%	61.3%	72.5%	93.6%	93.1%	75.9%	41.2%	110.1%	63.5%	74.9%
令和6年度実績(人) D	40,422	42,216	17,721	15,200	9,458	11,465	21,323	25,826	30,581	15,255	3,229	13,111	245,807
対6年度比率(%) E=B/D	83.8%	100.5%	95.1%	70.2%	96.6%	87.2%	107.1%	127.9%	97.1%	46.9%	180.8%	110.4%	96.0%

#### 入園者の推移、増減要因

【対目標比】74.9% 【対前年比】96.0%

目標入園者数に対して2月を除き未達となった。前年比では、前年の25周年効果の反動で4月は減少、5月は野外イベント、クルーズ船の外国人団体の立ち寄りなどで横ばい。6月から9月にかけては、団体の減少や花火回廊のオペレーション変更、中止となり減少した。9月は長引く残暑の影響で前年を下回った。10月は多肉植物の販売会を開催し微増。11月はかぐや祭の開催で増加。12月は天候不順の日が多く減少。1月は年末年始の天候不順、前年が好調の反動のため減少。2月3月は安定した天候に恵まれたため、前年を上回った。